



# NKSJ

## HOLDINGS

株主の皆さまへ

# 第3期 株主通信

(中間期) 2012年4月1日～2012年9月30日

### contents

---

- 1 … NEWS FLASH
- 3 … トップメッセージ
- 4 … NKSJグループ経営計画の見直し
- 7 … 連結財務ハイライト  
(NKSJホールディングス)
- 8 … 財務ハイライト  
(損保ジャパン、日本興亜損保、NKSJひまわり生命)
- 11 … NKSJグループのCSR
- 13 … 会社概要／役員／株式の状況／ホームページのご案内
- 14 … 株主メモ

NKSJホールディングス株式会社

証券コード：8630



# NEWS FLASH

NKSJグループでは、さまざまな取り組みを行っております。ここでは、2012年度上半期の主なものをご紹介します。

2012年  
10月

## 新たなグループ事業の拡大 (ロードアシスタンスサービス、介護サービス)

2012年4月に設立した株式会社プライムアシスタンスが、10月からロードアシスタンスサービスの提供を開始しました。自動車事故の際の迅速なレッカー手配など、万が一の際のご契約者の皆さまへのサービス向上を実現します。

また、損保ジャパンは、全国規模で介護事業を展開する株式会社シダー (以下「シダー社」) の株式を投資事業有限責任組合を通じて取得することで介護サービス事業へ参入しました。損保ジャパンとシダー社は両社のノウハウを融合して、高齢化社会に向けた新しいサービスを開発・提供していきます。

NKSJグループはこれからもさまざまな分野で先進的なサービスを展開していきます。

プライムアシスタンス



2012年  
6月

## 《日系損保初》プノンペン駐在員事務所の開設

カンボジアでは、日本興亜損保のマレーシアにおける出資提携先であるロンパック保険会社が現地の銀行と合併でCampu Lonpac Insurance Plc (以下「カンプロンパック社」) を設立しています。日本興亜損保は、これまでもカンプロンパック社を通じて日系企業に保険サービスを提供してきましたが、このたび日系損保として初の駐在員事務所を開設しました。

同事務所の開設により、カンプロンパック社と連携して、カンボジアに進出する日系企業へのサービス態勢の拡充を図っていきます。

2012年  
8月

## ブータン王立保険公社への技術支援に関する提携

日本興亜損保は、ブータン王国最大の保険会社であるブータン王立保険公社 (Royal Insurance Corporation of Bhutan Limited (以下「RICB社」)) との間で、RICB社への技術支援に関する提携に合意し、提携契約書に調印しました。

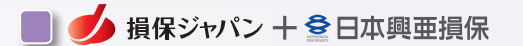
日本興亜損保は、RICB社への技術支援を通じて、ブータン王国における損害保険の普及と損害保険業界の発展に貢献し、同国の経済成長および両国の友好関係の深化に寄与していきます。



2012年  
9月

## ISO39001で世界初の登録認定取得

損保ジャパンと日本興亜損保は、新たに創設された道路交通安全マネジメントシステムの国際規格ISO39001にもとづく登録証を取得しました。ISO39001は交通事故被害の発生根絶を目的に、2020年までに全世界10万件の認証を目指しています。これからも交通事故防止に関する取り組みを積極的に行っていきます。



2012年  
8月

## 自動車運転者向けスマートフォン用アプリの提供

損保ジャパンと日本興亜損保は、スマートフォン用アプリ「Safety Sight (セーフティサイト)」を共同開発しました。前方車両の接近を知らせる事故防止機能や、車両衝突時の前後を録画する「ドライブレコーダー」のほか、安全運転診断や走行履歴の保存、パンクやバッテリー上がり時の対処法の解説などのサービスを無料で提供します。



2012年  
10月

## 太陽光発電事業者向け「売電収入補償特約」の発売

損保ジャパンは、再生可能エネルギーの全量買取制度の開始を受けて「売電収入補償特約」の提供を開始しました。太陽光発電システムが火災などで損害を被り、事業計画上の発電量を確保できなかった場合の営業利益の減少を補償します。企業のリスクを軽減して、再生可能エネルギー事業の一層の普及を支援していきます。

2012年  
4月

## JCBカード会員向け「トッピング保険」の提供開始

日本興亜損保は、株式会社ジェーシービーが発行するJCBカード会員の方に向けて、保険料が小額で、インターネットで簡単に加入手続きが完結する「トッピング保険」の提供を開始しました。「携行品」、「旅」、「日常生活賠償」、「自転車」、「ゴルフ」の5つのプランをラインナップしており、24時間・365日加入手続きが可能です。

お知らせ

～ 合併新会社「損保ジャパン日本興亜」のシンボルマークを決定しました。～



### 〈シンボルマークの意味〉

絶対的な安定と調和を感じさせる赤の正円は、日本の象徴。明日の方向を指し示し牽引するプラチナの環は、損保ジャパン日本興亜が未来に向かって世界中の人々と取り結んでいく「新しい信頼」の象徴です。この正円と環をダイナミックに組み合わせることで、日本を代表するブランドとして「世界で伍していく会社」を目指すという私たちのビジョンを表現しました。



## 新経営体制で収益力を向上

NKSJホールディングス株式会社  
取締役社長 櫻田 謙悟

日頃より皆さまのご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
2012年度上期の業績(連結)は、国内損害保険事業(正味収入保険料)および国内生命保険事業(生命保険料)ともに順調に拡大しました。しかしながら、約1,000億円の有価証券評価損を計上したことにより、550億円の経常損失、373億円の中間純損失となりました。また、通期業績につきましては、当期末の株式市場の水準を中間期末と同水準として予想し、年初予想の当期純利益240億円を当期純損失280億円と下方修正しました。なお、株式市場の当期末水準が前期末並みに回復した場合には、年初予想を上回る当期純利益となる見込みです。

この状況とグループ内主要損保2社(損保ジャパン・日本興亜損保)の2014年度の合併計画を踏まえ、従来の経営計画を見直した結果、2015年度の修正連結利益目標を、従来の1,600億円から1,800億円~2,100億円へと上方修正しました。

国内損害保険事業においては、合併年度の一年前である2013年度から効率化を推進、施策・業務の一体化を加速させるなど、業界トップレベルの事業効率・収益性の実現を目指します。国内生命保険事業においては、経

営資源の戦略的投入により、収益性が十分な保障性商品を中心に規模拡大を図ります。海外保険事業および金融サービス事業等については、選択と集中をキーワードとしてグループへの収益貢献を目指します。

また、資本政策については、引き続き「財務健全性の確保」「資本効率の向上」「株主還元の拡充」の3要素のバランスをとりながら、企業価値の拡大を目指します。株主還元については、安定配当の方針を堅持しつつ、経営環境、資本の状況等に即した機動的な株主還元を目指します。具体的には、年初の配当予想80円を60円とする一方、相応の自社株式を取得することによって、配当と自社株式取得を合算した総還元額を維持する方針です。なお、2013年度より中間配当を実施する予定です。

当社は、新経営体制において策定した新たな経営計画を実行することにより、着実に収益力を向上させ、グループの持続的成長を実現してまいります。

今後とも、ご愛顧・お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年12月

損保2社(損保ジャパン・日本興亜損保)の合併およびその後の経営環境の変化等を踏まえ、計画の見直しを行いました。

### グループ経営数値目標(修正利益ベース)

	2011年度 (実績)	2012年度 (予想)	2015年度 (計画)	参考: 2011/9/21公表 2015年度(計画)
修正連結利益	12億円	544億円	1,800~2,100億円	1,600億円
国内損害保険事業	△ 713億円	△ 409億円	700~800億円	810億円
国内生命保険事業	1,000億円	850億円	1,000~1,100億円	550億円
海外保険事業	△ 197億円	99億円	140~200億円	200億円
金融サービス事業等	△ 76億円	5億円	20~30億円	40億円
修正連結ROE	0.1%	2.8%	7%以上	7%以上

(注1) 消費税増税による影響については反映していません。

(注2) 損保2社の合併一時コストを、特殊要因として国内損害保険事業の修正利益の計算過程から除外しております。

修正利益の計算方法は以下のとおりです。

事業区分	修正利益計算上の事業の定義	修正利益の計算方法
国内損害保険事業	損保ジャパン、日本興亜損保、セゾン自動車火災、 そんぽ24の単体の合算  *セゾン自動車火災とそんぽ24については、今回の経営計画の見直しに伴い、2012年度より金融サービス事業等から国内損害保険事業へ事業区分を変更しています。	当期純利益 + 異常危険準備金繰入額(税引後) + 価格変動準備金繰入額(税引後) - 有価証券の売却損益・評価損(税引後) - 特殊要因
国内生命保険事業	NKSJひまわり生命の単体	当期EV(エンベディッド・バリュー)増加額 - 増資等資本取引 - 金利等変動影響額
海外保険事業	海外保険子会社	財務会計上の当期純利益
金融サービス事業等	損保ジャパンDIY生命、金融サービス事業、 ヘルスケア事業など	財務会計上の当期純利益

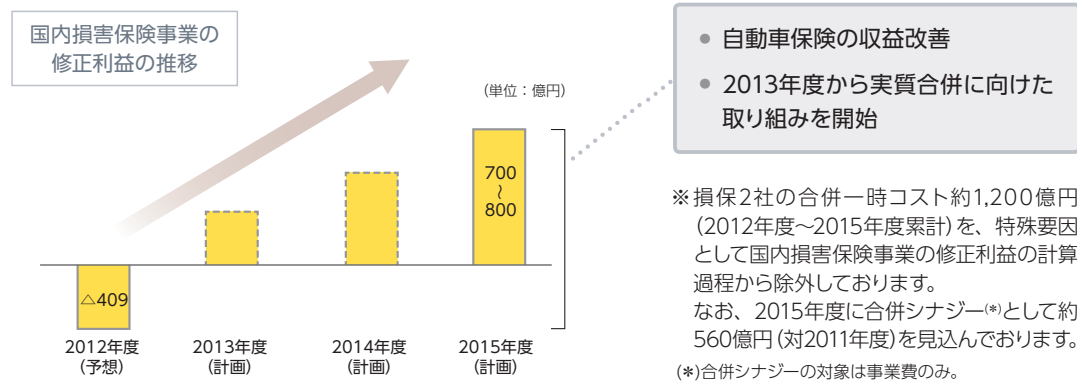
修正連結ROEの計算方法は以下のとおりです。

修正連結利益 ÷ [連結純資産(除く生保子会社純資産) + 異常危険準備金(税引後) + 価格変動準備金(税引後) + 生保子会社EV]

※ 分母は、期首・期末の平均残高

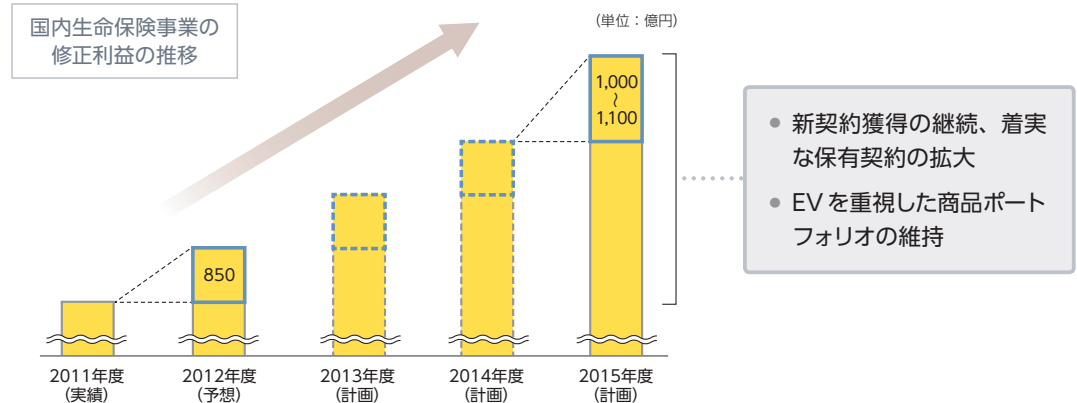
### 国内損害保険事業

- 損保ジャパンと日本興亜損保は2014年度上半期を目処に合併し、「損保ジャパン日本興亜」が誕生します。
- 合併前の2013年度から効率化を進め、業界トップレベルの効率性と収益性を実現します。



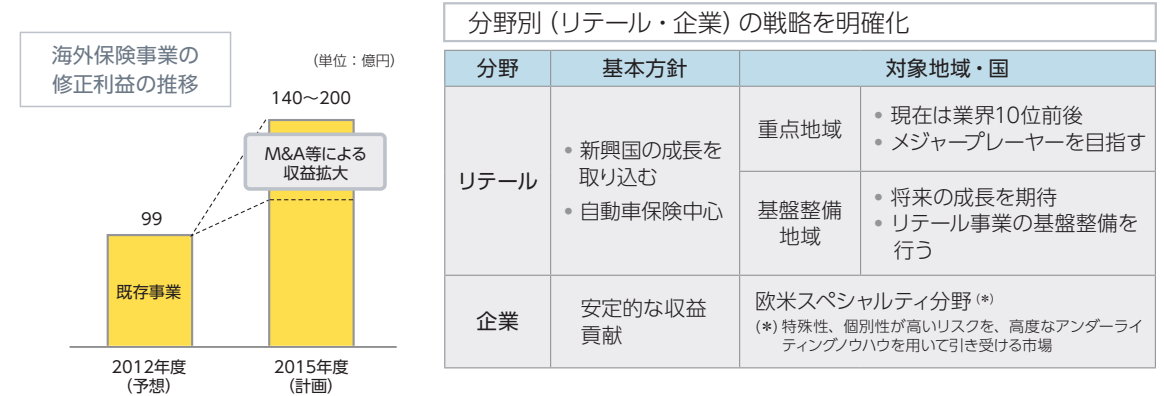
### 国内生命保険事業

- 収益性十分の保障性商品ウェイトを向上しながら、規模拡大を図ります。
- 損保チャンネルによる生保クロスセルの推進をチャンネル戦略の核とします。



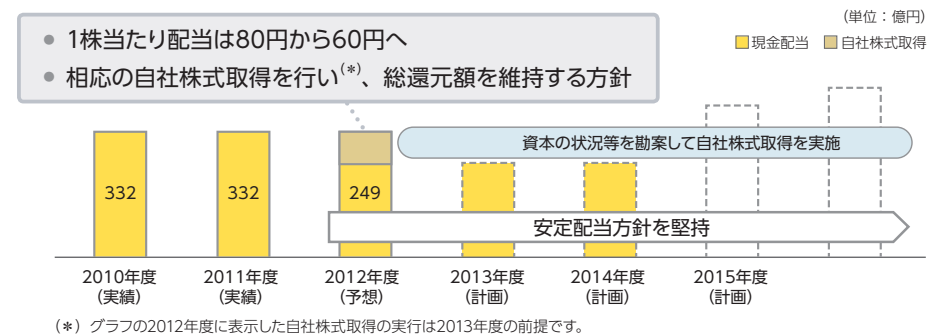
### 海外保険事業

- 既存事業の収益拡大に加え、分野別 (リテール・企業) の戦略を明確化し、対象地域の選定と優先順位付けを行い、収益拡大を目指します。



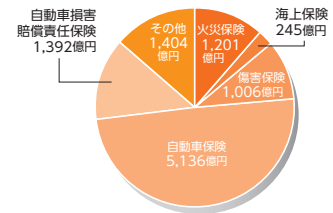
### 株主還元方針

- 安定配当方針を堅持しつつ、経営環境、資本の状況等に即した機動的な株主還元を目指します。中期的な目標水準は、引き続き「総還元性向で修正連結利益 (国内生命保険事業を除く) の50%」とします。
- 2012年度配当予想を80円から60円とする一方、相応の自社株式取得を実施することにより、総還元額を維持する方針です。
- また、2013年度より中間配当を実施する予定です。



	2011年9月期	2012年9月期
経常収益	14,016	13,657
保険引受収益	13,183	12,867
正味収入保険料	10,086	10,386
生命保険料	1,225	1,239
資産運用収益	774	732
その他経常収益	58	57
経常費用	14,588	14,207
保険引受費用	11,566	10,871
正味支払保険金	7,479	6,664
資産運用費用	839	1,145
営業費及び一般管理費	2,126	2,139
その他経常費用	55	51
経常損失(△)	△ 572	△ 550
中間純損失(△)	△ 333	△ 373
総資産	87,282	85,674
純資産	9,353	8,458

正味収入保険料の種目別内訳 (2012年9月期)



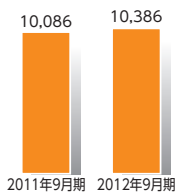
正味収入保険料

料率改定を行った自動車保険や自動車損害賠償責任保険などが増収となったことから、正味収入保険料は、前中間期に比べて299億円増加(+3.0%)して1兆386億円となりました。

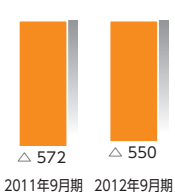
経常損益・中間純損益

株式市場の下落に伴う有価証券評価損の増加を主因として、経常損益は550億円の経常損失、中間純損益は373億円の中間純損失となりました。

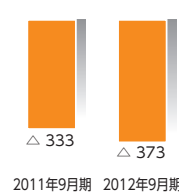
正味収入保険料 (単位:億円)



経常損益 (単位:億円)

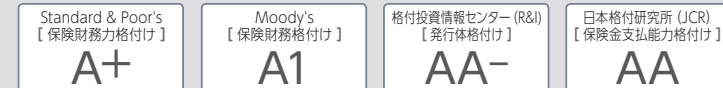


中間純損益 (単位:億円)

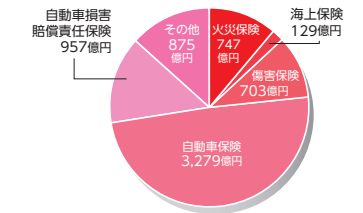


	2011年9月期	2012年9月期
正味収入保険料	6,480	6,694
(除く自賠責)	5,617	5,736
正味損害率	79.0%	69.6%
(除く金融保証・自賠責)	75.8%	66.1%
正味事業費率	33.2%	33.0%
(除く自賠責)	34.4%	34.7%
コンバインドレシオ	112.2%	102.6%
(除く金融保証・自賠責)	110.2%	100.8%
保険引受利益(△は損失)	△ 204	△ 51
資産運用粗利益	69	△ 283
経常損失(△)	△ 197	△ 384
中間純損失(△)	△ 104	△ 235
総資産	45,924	43,405
純資産	6,009	4,708
ソルベンシー・マージン比率 (2012年9月30日)		492.4%

格付け (2012年9月30日現在)



正味収入保険料の種目別内訳 (2012年9月期)



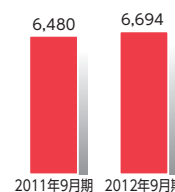
正味収入保険料

火災保険が好調であったことに加え、料率改定を行った自動車保険や自動車損害賠償責任保険においても増収となったことから、正味収入保険料は、前中間期に比べて214億円増加(+3.3%)して6,694億円となりました。

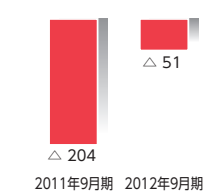
経常損益・中間純損益

株式市場の下落に伴う有価証券評価損の増加を主因として、経常損益は、前中間期に比べて187億円減少して384億円の経常損失となりました。また、中間純損益は、前中間期に比べて131億円減少して235億円の中間純損失となりました。

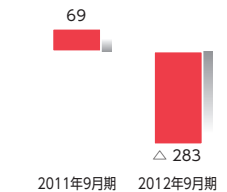
正味収入保険料 (単位:億円)



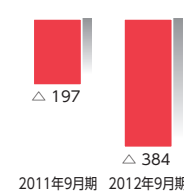
保険引受損益 (単位:億円)



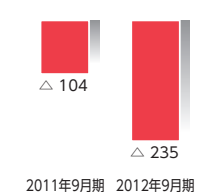
資産運用粗利益 (単位:億円)



経常損益 (単位:億円)



中間純損益 (単位:億円)



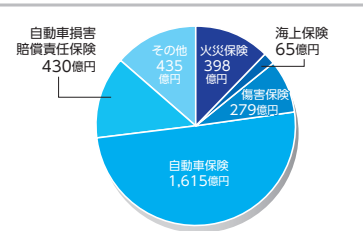
**日本興亜損保 (単体)**

	2011年9月期	2012年9月期
正味収入保険料	3,198	3,225
(除く自賠責)	2,812	2,794
正味損害率	88.0%	74.7%
(除く自賠責)	86.5%	72.2%
正味事業費率	34.4%	34.4%
(除く自賠責)	35.9%	36.6%
コンバインドレシオ	122.5%	109.2%
(除く自賠責)	122.4%	108.8%
保険引受利益 (△は損失)	△ 15	97
資産運用粗利益	131	175
経常利益	100	261
中間純利益	73	180
総資産	23,362	22,089
純資産	3,465	3,066
ソルベンシー・マージン比率 (2012年9月30日)		465.2%

格付け (2012年9月30日現在)

Standard & Poor's 【保険財務力格付け】	格付投資情報センター (R&I) 【発行体格付け】
<b>A+</b>	<b>AA-</b>

正味収入保険料の種目別内訳 (2012年9月期)

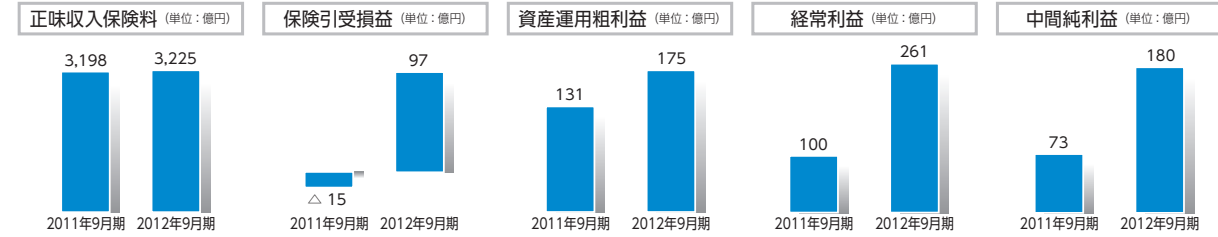


**正味収入保険料**

火災保険が減収となったものの、料率改定を行った自動車保険や自動車損害賠償責任保険が増収となったことから、正味収入保険料は、前中間期に比べて27億円増加 (+0.9%) して3,225億円となりました。

**経常利益・中間純利益**

保険引受利益が112億円増加したことを主因として、経常利益は、前中間期に比べて161億円増加して261億円となりました。また、中間純利益は、前中間期に比べて107億円増加して180億円となりました。



**NKSJひまわり生命 (単体)**

	2011年9月期	2012年9月期
保有契約高	170,362	182,715
新契約高	15,860	13,870
保有契約年換算保険料	2,821	2,907
新契約年換算保険料	193	172
保険料等収入	1,774	1,779
保険金等支払金	844	844
基礎利益	△ 16	51
経常利益 (△は損失)	△ 14	44
中間純利益 (△は損失)	△ 45	13
総資産	17,497	18,764
純資産	780	808
ソルベンシー・マージン比率 (2012年9月30日)		1,473.9%
エンベディッド・バリュー (EV) (2012年3月31日)		6,153

格付け (2012年9月30日現在)

Standard & Poor's 【保険財務力格付け】	格付投資情報センター (R&I) 【保険金支払能力格付け】
<b>A+</b>	<b>AA-</b>

**保険料等収入**

金利低下を受け、一時払および短期払込の終身保険の販売抑制による減収があったものの、収入保障保険、医療保険が増収となったことから、保険料等収入は、前中間期に比べて4億円増加 (+0.3%) して1,779億円となりました。

**経常利益・中間純利益**

保険料等収入が増加したことに加え、責任準備金繰入額が減少したことなどから、経常利益は前中間期に比べて59億円増加して44億円となりました。また、中間純利益は、合併関連費用の負担がなくなったこともあり、前中間期に比べて59億円増加して13億円となりました。

**用語解説**

**ソルベンシー・マージン比率とは?**

保険会社の健全性を見るうえで重要な指標のひとつで、予測できない大災害が発生した場合に、保険金を支払う能力があるかどうかを判断する数値です。一般的に200%以上なら保険金支払能力は問題ないとされています。

**エンベディッド・バリュー (EV) とは?**

生命保険会社の価値・業績を評価する指標のひとつ。「企業の純資産価値」と「保有契約からもたらされる将来利益の現在価値」を合計したもので、生命保険会社の損益計算書等の会計情報を補完する指標となるものです。欧州やカナダなどでよく用いられています。当社でも、エンベディッド・バリューを経営管理上重要な「社内評価指標」と位置づけています。

## NKSJグループの考えるCSR (CSR基本方針)

NKSJグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、経営基本方針を踏まえ、高い倫理観のもと、国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ、地域社会への配慮などを自らの事業活動に組み込みながら、企業としての社会的責任を果たしてまいります。NKSJグループは、120年に及び歴史のなかで培ってきた、損害保険事業を核とする本業の強みを活かし、これからも常に一步先を見据えて、お客さまに「安心、安全」を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、新しい社会的価値の創造に挑み続けます。

## CSRトピックス

### 損保ジャパン

#### 「国連持続可能な開発会議 (リオ+20)」への参加とグローバルな情報発信

2012年6月、ブラジル・リオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議 (リオ+20)」に損保ジャパン会長の佐藤正敏が出席しました。リオ+20には、各国首脳や政府関係者、企業、NGO、市民など世界から約30,000名が参加し、地球温暖化や生物多様性などの課題に加えて人口問題や貧困対策など幅広いテーマに関する議論が行われ、成果文書「The Future We Want」が採択されました。

損保ジャパンはリオ+20にあわせて発表された「持続可能な保険原則 (PSI)」に署名し、事例発表を行いました。

また、期間中に開催されたさまざまな国際セミナー・イベントに登壇し、損保ジャパンのCSRの取り組みや佐藤が会長を務めている経団連自然保護協議会の活動をグローバルに発信しました。



### 日本興亜損保

#### お客さまの「Eco-Net 約款」などのご利用に応じた義援金の寄付

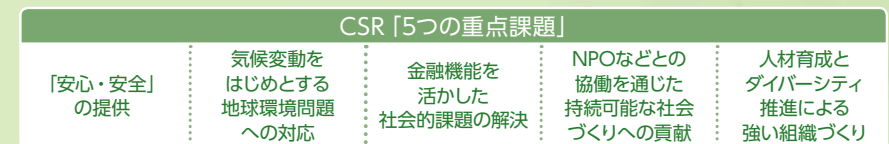
日本興亜損保では、東日本大震災の被災地復興支援の一環として、2011年5月から2012年3月までの期間中、お客さまに「Eco-Net 約款」などをご利用いただいた場合に、一定額を日本興亜損保が負担して義援金の寄付を実施しました。義援金は約1億400万円に達し、2012年6月までに日本ユニセフやあしなが育英会、NGO/NPOなどに寄付しました。

2012年8月には、寄付先の一つであるNGOと協力して取り組んでいる東北復興支援プロジェクト「未来を育む学びin東北」の一環として、海外の学生7名と日本の学生7名の合計14名がともに東北を訪れ、被災された人々や復興に取り組む人々の生の声に触れながら学ぶ「世界が東北から学ぶ旅 (ラーニング・ジャーニー)」を行いました。



## ステークホルダー・エンゲージメント\*を重視したCSRの推進

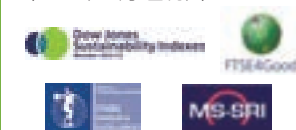
NKSJグループは、多種多様なステークホルダーとのコミュニケーションについて社会的責任の課題を認識し、信頼関係と協働関係を構築し、より大きな成果を生み出すための重要な活動と捉えています。2012年には、ステークホルダーからの意見をふまえて、新たなCSR「5つの重点課題」を特定しました。



\*ステークホルダーと未来に向けた対話を積み重ね、互いに協働すること。

## 国内外のSRIインデックス (社会的責任投資指数) などの組み入れ

NKSJホールディングスは、以下のSRIインデックスやSRIファンドの組入候補銘柄となっています。(2012年10月1日現在)



### NKSJひまわり生命

#### 療養生活の質 (QOL) 向上を実現するサービスの提供

NKSJひまわり生命では、保険商品を通じた経済的サポートだけでなく、独立行政法人国立がん研究センターと協定を結び、がん患者のQOL向上に貢献していくため、がん患者やそのご家族に対して国立がん研究センターとともにがん医療情報の普及推進、がんに関する不安・悩みを相談できる「相談支援センター」の施設紹介などに努めています。

2012年10月には「働く世代のがん患者とその家族のQOL向上」について国立がん研究センター理事長と



日経ビジネス (11月26日号)に掲載

NKSJひまわり生命社長の松崎敏夫が対談を行い、その内容がビジネス誌に掲載されるなど、QOL向上を実現するためにできることを考えると、両社の提携を広くアピールしました。

### 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

#### 持続可能な社会の実現に寄与する金融商品の提供 ~ 「ぶなの森」[SNAMサステナブル投資ファンド] ~

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントが運用する「損保ジャパン・グリーン・オープン (愛称: ぶなの森)」が「R&Iファンド大賞2012」において「投資信託/国内SRI・環境関連部門」の優秀ファンド賞を受賞しました。

「ぶなの森」は日本へのSRI導入の初年度とされる1999年に設定したエコファンドであり、同部門の最優秀または優秀ファンド賞を受賞するのは5年連続\*となります。四半期ごとに「ぶなの森ニュース」を発行し最新の環境トピックスを紹介するなど、投資家の皆さまと定期的な環境コミュニケーションを図っています。

また、2012年8月には年金基金・機関投資家のお客さま向けに新しいSRIファンド「SNAMサステナブル投資ファンド」を設定しました。本ファンドは環境・社会・ガバナンス (ESG) 評価の高い企業に幅広く投資し、長期的に安定した収益の獲得を目指しています。

\*これらの評価は過去のデータに基づいたものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

## ■ 会社概要 (2012年9月30日現在)

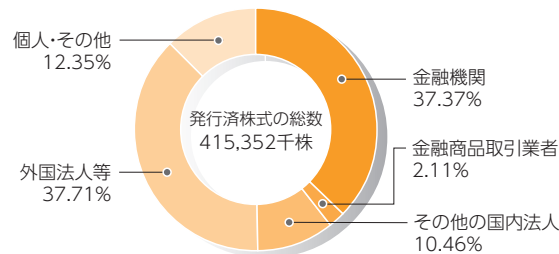
会社名 …… NKSJホールディングス株式会社  
 (英文表記: NKSJ Holdings, Inc.)  
 本店所在地 …… 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号  
 設立日 …… 2010年4月1日  
 資本金 …… 1,000億円  
 従業員数 …… 35,710名(連結)  
 事業内容 …… 損害保険会社、生命保険会社その他の  
 保険業法の規定により子会社等とし  
 た会社の経営管理およびこれに附帯す  
 る業務

## ■ 役員 (2012年9月30日現在)

代表取締役会長兼執行役員	二宮 雅也
代表取締役社長兼執行役員	櫻田 謙悟
取締役専務執行役員	辻 伸治
取締役常務執行役員	高田 俊之
取締役執行役員	山口 雄一
取締役執行役員	西澤 敬二
取締役(社外取締役)	弦間 明一
取締役(社外取締役)	朝香 聖一
取締役(社外取締役)	藤田 純孝
取締役(社外取締役)	川端 和治
取締役(社外取締役)	ジョージ・オルコット
取締役(社外取締役)	松田 章
執行役員(経営管理部長)	西脇 芳和
常勤監査役	湯目 和史
常勤監査役	吉満 英一
監査役(社外監査役)	増田 宏一
監査役(社外監査役)	保田 眞紀子
監査役(社外監査役)	西川 元啓

## ■ 株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数 …… 1,200,000,000 株  
 発行済株式の総数 …… 415,352,294 株  
 株主数 …… 51,840 名  
 所有者別株式分布状況



## ■ ホームページのご案内

ホームページを通じて、個人投資家の皆さまにNKSJホールディングスをより良くご理解いただくための情報をお届けしています。



<http://www.nksj-hd.com/>

事業年度 …… 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 期末配当および議決権の基準日 …… 3月31日 (中間配当を実施する場合の基準日は9月30日)  
 単元株式数 …… 100株  
 公告の方法 …… 電子公告により行います。(http://www.nksj-hd.com/)   
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。  
 上場証券取引所 …… 東京証券取引所(市場第一部) および大阪証券取引所(市場第一部)  
 株主名簿管理人 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 郵便物送付先および各種お問い合わせ先 …… 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話: 0120-232-711 (通話料無料)  
 特別口座の口座管理機関 …… みずほ信託銀行株式会社および三菱UFJ信託銀行株式会社

## ■ 株式に関する各種手続き

- 受取がお済みでない配当金のお受け取り、支払明細等の発行についてのお問い合わせは、株主名簿管理人へご連絡ください。なお、配当金のお支払期間は支払開始から3年間となっておりますので、お早目にご請求ください。
- 住所変更、配当金受領方法の指定および単元未満株式の買取・買増などの各種お手続きについては、証券会社等に口座をお持ちの株主さまはお取引のある証券会社等へお問い合わせください。なお、証券会社等に口座がなく、特別口座で管理されている株主さまは、裏表紙「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。

## ■ 特別口座からの振替手続き

特別口座に記録されている株式は「単元未満株式の買取・買増」を除いて売買ができませんので、お早目に証券会社に株主さまご本人名義の口座を開設していただき、当該口座へ振替手続きを実施していただきますようお願いいたします。詳細につきましては、裏表紙「特別口座の口座管理機関」までお問い合わせください。



## ■ 単元未満株式の買取・買増制度のご案内

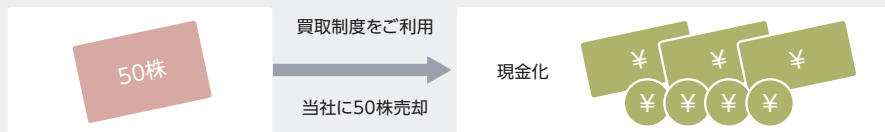
単元未満株式については、買取制度または買増制度をご利用いただくことができます。

### ● 単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。

#### 具体例

50株をお持ちの株主さま

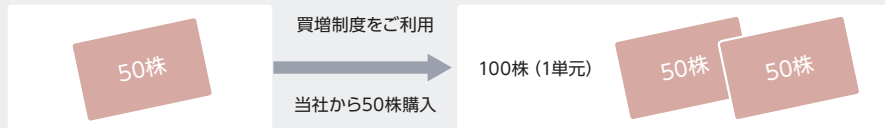


### ● 単元未満株式の買増制度を利用

単元未満株式を当社から市場価格で買い増して、単元株式とする制度です。

#### 具体例

50株をお持ちの株主さま



## ■ 特別口座の口座管理機関

	[ 旧 損保ジャパンの株主さま ]	[ 旧 日本興亜損保の株主さま ]
特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 および お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-288-324 (通話料無料)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (通話料無料)

## NKSJホールディングス株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿一丁目26番1号  
TEL. 03-3349-3000 (代表)



この株主通信は環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。